

## ・・・11・26防災訓練に寄せて・・・

現状、地震、大雨等の災害発生時に在宅避難が大半を占める事が予想されるが、残念ながら、逗子市の在宅避難者に対する安否確認、災害状況の把握等、包括的な体制は未整備のままである。

この度、逗子市は、当状況に鑑みて久木小学校区地域をパイロットケースとして、災害時の包括的な防災体制を整備、構築して、逗子市全体の防災体制を確立する事を公式に決定し、まずは災害時に久木小学校区・地区防災拠点を設置、市の職員を地域活動要員として配置し、地域の安否確認、災害状況の把握を地域の自主防災組織（各町内会）と連携を行い、集約した災害情報を逗子市防災本部と共有し、発災時、発災後の情報をベースとした逗子市及び市内外の支援者と迅速且つ効率的な体制を構築する事を目指している。

従来、逗子市の防災訓練は避難所の立ち上げ、避難者への対応を中心とした訓練が中心であったが11月26日に久木中学校で行われるものは避難所訓練に加え、地域の在宅避難者を対象とした安否確認、被災状況の確認等包括的な避難所の運営訓練を行う運びとなった。

当該、訓練は震度6以上の地震を想定したものと、各地域で最近多発する自然災害に対応するという危機意識を共有し、まず地域の命と生活を守るための準備を行うことになるが具体的にはSNSを活用した安否確認、災害情報の収集を各地域で行い、これを地区防災拠点に集約して逗子市防災本部との迅速且つ効率的な情報対応が出来る様準備を行う。

更に万全な対応を考えると、SNSを活用出来ない高齢者世帯に対する対応として、地域の民生委員、福祉団体との連携も考慮する体制づくり、最終的には向こう三軒両隣の緊密な地域づくりの地道な活動地域づくりを日頃から行って行く事が重要となるものと思う。地域とそれを集約する地区防災拠点の情報伝達等の手段として発災時のコミュニケーションツール、防災無線ライン等携帯機器の活用確認等、整備すべ項目は少なくない。各地域の被災状況の確認を誰が行うのか。体制づくりには課題も多い。

まずは各地域における防災に対する危機意識の共有、それに備える意識の共有、各自治会の地道な地域づくりの方向性の共有が出来るかが問われる事になる。

校区住民協 事務局長 石井 達郎

## 令和5年10月度役員会

開催日時と場所:2023年10月7日(土)13時30分～ 15時10分 久木会館 参加者:20名(内役員14名)  
議題

### (1)審議事項

#### ① 逗子市総合計画審議会報告

審議会委員である藤江氏より、逗子市の総合計画審議の動向、主にデジタル化の現状について報告があった。

#### ② 11月26日の久木中学校防災訓練に向けての実施内容確認

・各自主防災組織長に配布した防災訓練のポスターを、各自治会が回覧するよう要請された。

・Webアンケートのチラシは11/13日に印刷会社より出荷予定。久木会館に届くので、各自治会長は必要配布部数を確認し、取りに来るよう要請された。

・地域防災拠点との情報連絡訓練につき、拠点リーダーの廣末氏、防災安全課との詳細な打ち合わせが必要であることから、10/19日の避難所準備委員会に廣末氏の出席が要請された。

・体育館のレイアウトの確認は、10/19日の避難所準備委員会でおこなうことになった。

・ハイランド自治会から、役割分担として、情報班、食料物資班を担当するとの申し出があるが、具体的に何をしてもらうのかを決める必要があり、10/19日の避難所準備委員会で議論することになった。

・会場内に張り出すスケジュール表、外に掲示する看板は用意済みであることが確認された。

また、どこで何が実施されているのかを確認できる詳細スケジュール表を来場者に配る必要があるとの意見が出され、小林氏が作成することとなった。

・地域防災本部にどのような情報が伝達され、どう対処しているのかをLIVE配信するべきであるとの意見が出され、今後検討することとした。

③ 防災訓練時のアマチュア無線ネットワークとの連携について

アマチュア無線クラブが防災訓練に参加する際の提案につき説明があった。

・アマチュア無線クラブから、取り扱う情報は、各自自主防災組織から簡易無線で本部に連絡する情報と同じにするよう要請があり、シナリオを予め作成し共通情報とすることになった。

伝達シナリオについては、シナリオ案を10/19日の避難所準備委員会に持ち寄ることになった。

・今回の訓練では、アマチュア無線が本部に対する有効な連絡ツールとなりうるのかの確認を主眼とすることが確認された。

・情報連絡の開始時間は、本部が立ち上がった後が有効であるので、10:45～11:00を予定することとした。

#### ④ 拡大久木朝市について

久木小学校PTAとの共催で、11月23日に実施する。12グループが出店予定。

設営は久木小学校PTAの父親が担当するとの説明があった。

#### ⑤ 令和5年度上期予算執行状況

会計より、令和5年度上期予算執行状況について説明があり、ほぼ予算通りの執行状況であることが報告された。

#### ⑥ その他

a) 「住民協ひろば11月号」各自治会防災に関する原稿の確認

各自治会からの原稿提出状況が確認された。

今回提出された資料は「住民協ひろば特別号」特集テーマのベースとして使用する予定。

また、特別号の編集責任者を早期に決める必要があるとの意見が出され、検討することになった。

b) 高齢化に伴う公共交通機関の対応について

ハイランドは、休止していた買い物支援のバス運行を清寿園の支援を受け、10月6日から再開したことが報告された。毎週金曜日、2便運航する予定、市の補助金については現在のところ支給の確認は取れていないとのことであった。

## 今年もやりましょう。近隣の安否確認訓練

山の根自治会 会長 龍村 敦子

大地震の直後、みなさんが家にいたとしたらどんな行動をとるのでしょうか？体験したことがないのでわかりませんから訓練をします。11月26日日曜日9時半に震度6強(関東大震災の逗子)の大地震が防災しました。日曜日の9時半です。ほとんどの家庭は皆さん自宅にいると仮定します。家族全員無事ですか？家具が倒れましたか？出火してませんか？自分の家、家族は無事でした。周りの家が気になります。隣家は倒壊してない？住民は無事？火事はおきてない？向こう三軒両隣を確認します。これが近隣の住民同士の安否確認です。昨年の訓練は防災直後の9時半に玄関に出て、自分の家の安否を近隣に知らせました。班長さんもしくは近隣のその役割の人が玄関に出ている世帯の確認に回りました。班長さんは3人のブロック長さんに安全の確認を報告しました。ブロック長さんたちは久小の避難所に全員無事の通達を携帯無線で連絡しました。……しかし本当に防災した時はこのようにスム

ーズにうまくいくはずはありません。いつ防災するかわからない大地震で家族の安否がどれくらいで確認できるのか、近隣の安否にいたっては想像できません。しかし…山の根自治会では住民の安否の確認を防災後必ず実施する！ということを決めています。訓練は班長さんの主導のもとにおこないますが、本当の災害時は班長さんの出番を待ちません。班長やブロック長が在宅しているとは限りませんから。向こう三軒両隣が積極的に実践できるようになるために毎年この訓練を行うのです。

昨年の各班の安否確認はその班の区分け状況や地形の関係で班がやりやすい方法で自由な形で実施していただきました。みなさんの記憶に残っているでしょう。班ならではの方法を今年も踏襲して、だれでもが班長の役割を担えるような体制になっていると災害に強い地域がつかれると確信しています。

## 災害時の在宅避難者の安否確認訓練

久木連合町内会 防災部長 新倉 洋一

令和5年度久木連合町内会自主防災部は 11/26 (日)に実施予定の災害時の在宅避難者の安否確

認訓練を(1丁目/2丁目実施)予定しております。今回は初めて実施するため早めに情報収集資料収集を行い、不手際のないよう心掛けております。今回の安否確認訓練は1丁目、2丁目の町内会会員宅(256世帯)を中心に町内会役員と減災部員が合同で町内会会員宅を1軒1軒周り安否確認を実施し、その状況を集計しその集計結果を自主防災部連絡班班長に連絡する。その結果を受けた連絡班班長は自主防災本部部長に集計結果を報告しその後地区防災拠点担当者に結果報告をする。

又今回は町内会役員、減災部員が在宅避難者の安否確認訓練を実施したが今後は各町内会班長さんをお願いするケースもあるかと思えます。もう1件問題があります。それは町内会に未加入の世帯の在宅避難者の安否確認の問題です。この問題は非常に難しい問題で町内会だけでは解決する問題ではないと思う、行政、地区防災拠点、その他の関係する他団体等が一致協力し合い解決する方法しかないと思えます。

## 逗子ハイランドの防災「あすへ備えよう」

逗子ハイランド自治会 防災部長 朝日 聖子

逗子ハイランド自治会防災部としては、安否確認訓練方法を以下のように考えております。

逗子ハイランド自治会は、全世帯(約1300軒)を10の常任区、その中を約10~20軒の組または区で分かれております。毎年、各地域の組長・区長を任命しており、平時は、回覧板をご自分の区内に配布する役割を担っておりますが、災害時におきましては、区内住民の安否確認を行い常任区長へ報告していただきます。さらに、各常任区長は、自主防災組織災害対策本部が立ち上がっている逗子ハイランド自治会館へ連絡を行って頂こうと考えております。

今回の安否確認訓練におきましては、組長・区長さんへの災害時の役割を認知していただくとともに、常任区長への報告、本部の集約練習を行おうと思っております。その他にも、行政より託された災害時支援者リストに関して、地域福祉部が平時から行っている高齢者見守り隊からの情報集約訓練を行います。

さらに今回は Google フォームを用いて、Web でも

集計を行い、さらに幅広い世代の災害時に必要な情報を集約する安否訓練を行う予定です。

- ①ご自宅周りでの安否確認・情報伝達の仕組み化
- ②高齢者見守り隊からの災害時支援者リストの安否確認と情報集約・伝達の仕組み化
- ③Web を使った各家庭の具体的な情報集約の仕組み化

この3つの手段を用い、より多くの方に参加していただける安否訓練を行う予定です。

訓練にあたっていくつか課題も生じております。

- ・住民一人一人の防災に対する意識の低さ
- ・常任区長・組長・区長の引き継ぎ方法
- ・Web を使って行うことへの抵抗などが挙げられます。

これらの課題に対しては 都度の自治会だよりにて「防災ページ」を作成し、住民の意識向上を計っております。また、来年度に向けての役員、区長、組長等の引き継ぎ書類の見直し、防災部としても住民の皆様に Web を身近に感じていただくイベントの開催などを心がけて おります。

## 山の根親交会における防災の現状について

山の根親交会 会長 瓶子 純一

山の根 3 丁目にある町内会、山の根親交会の防災については正直なところほとんどできていないというのが現状です。19 ある班の班長さんを中心とした防災組織がありますが、形だけで実際にはなにも機能していません。唯一行っているのは、防災倉庫に備蓄してある水、食料および、発電機の動作確認を毎月行っていることくらいです。しかし、この防災倉庫の点検も実際に参加する人は役員と班長さんで2~3人です。

なぜできないか山の根親交会における防災の現状について。役員さんが会長も含めて6人しかおらず、役員を含め住民の高齢化も進んでいます。若い

人たちと古くからいる住民との間の交流もあまりありません。さらにここ数年コロナ禍のために活動ができなかったこともあります。そしてなにより住民の皆さんの防災への意識が低いと感じられることです。

そのため11月26日に行われる防災訓練については、最初の安否確認は親交会では出来ず、オブザーバーとして参加します。グーグルフォームを使った状況確認については、班長会、掲示板等で周知をして、出来る限り多くの人に参加してもらおうと思っております。ただ高齢者が多いため、パソコンやスマホを扱える人が決して多いとは言えず、人数

的には少ないかと思われます。久木中学校に行っ  
ての避難所体験訓練は恐らく 5~6 人の参加にな  
ると思われます。

大規模震災が発生したときには想定外のことが  
起こります。防災組織を作り、担当者を決めても訓  
練通りに動けるとは限りません。担当者が仕事で不  
在の場合、誰もなにもできないのでは意味があり  
ません。親交会に限らず、もしものときには何をす

ればよいかを各人が理解し、自発的に行動するの  
が理想です。

防災についてほとんど何もできてない以上、ま  
ずは住民の皆さんの防災意識を高めてもらうには  
なにが必要かを考えたいと思っています。小さいこ  
とですが、まずは班長会や掲示板等で繰り返し、防  
災の大切さを皆さんに伝えていくことから始めたい  
と思います。

## 備えあれば憂いなし！

『災害は「まさか」ではなく「いつか」は起きるもの』  
という意識を持って防災対策に取り組もう

## 山の根会 会長 森田 宗一

災害対策の基本に自助・共助・公助の大事なポイント  
があります。日頃から私たちが取り組めるものは  
自助・共助になります。近年の災害を振り返りますと  
一番目には各家庭の防災対策が重要になります。  
安全対策では、避難路を確保するために出入り口  
をふさいだりしないように家具の向きや配置考え、  
転倒しないように固定など、また、懐中電灯やスリ  
ッパ、ホイッスルを備えておくなどの対策と共に、備  
蓄品の準備が必要です。いざという時に最低限必要  
な品をすぐに持ち出せるように非常用持ち出し  
袋(リュックサックなど両手が使えるもの)の準備も  
大切です。災害発生時には気が動転してパニックに  
なってしまうことのないように日頃から防災対策  
意識を高めていきたいと思います。

参 考:ローリングストック法=非常食を日常的に消費  
して、食べたら買い足すことを繰り返し、常に家  
庭に新しい非常食が備蓄される、まさに『食べ回し  
ながら備蓄する』という方法です。この方法だと、  
普段から食べ慣れている賞味期限が1年程度のレ  
トルト食品などでも、備蓄食料にすることができ、わ  
ざわざ長期保存の効く災害用の非常食を買わな  
くても済むようになります。

そして自助・共助に通じる重要なポイントが安否確  
認(連絡方法)になります。家族がそれぞれ別の場  
所にいるときに災害が発生した時には、お互いの安  
否を確認できるように日頃から連絡方法や集合場  
所などを家族で話し合っておきましょう。家族みん  
なが携帯電話を持っている場合でも、災害時は回  
線がつながりにくくなるため、連絡が取れない場  
合があります。安否確認には電話会社が提供する  
専用サービスやソーシャルネットワーキング(SNS)、  
公衆電話などもありますが、実際にどこまで活用で  
きるか分かりません。そこで身近な近隣ネットワ  
ーク(自治会)の安否各認サポート(共助)も重要にな  
ります。日頃から顔の見えるお付き合いの中での繋  
がり大きな支えになることは間違えありません。  
このような状況の中で今月 11 月 26 日には久木小  
学校区避難所訓練が行われます。山の根会とし  
ましてもこの機会を有効に、地域家族の安否確認で  
地域の皆さんがより安心して暮らせるよう取り組ん  
でまいります。当日には各班長さんと連携を図り実  
りある訓練にしていきたいと思っています。会員みな様  
にはご理解ご協力をよろしくお願いします。

## 編集後記

先月号の「住民協ひろば編集後記」にも投稿したが、わが国のみならず世界中で自然災害が頻発している。リビアの大洪水、ハワイマウイ島の山火事による市街地の消失等々、国内でも過去に例を見ない大雨による被害の多発、そもそも「線状降水帯」という言葉も最近耳にするものである。地球温暖化が進み、地球が悲鳴を上げているのだろう。地震も日常茶飯時に頻発している。公の予想では「南海トラフ地震」の発生確率は低くはなく、津波被害を含め想像を絶する被害予想が出ている。我が田越川も 60 ミリを超える降雨量の雨が降ると市内に水が溢れる事態となる様である。最近の事例を見ていると1日で1か月分を超す大雨が降るというニュースを耳にし、逗子でも何時その様な事態に陥っても不思議はないのである。先ずは足許の地域でも災害に備えるリスク感覚を皆で共有する必要があるだろう。

## 拡大朝市 予告

日時：11：23, 9：00~

場所：久小校庭

(雨天、体育館内)

事務局長 石井 達郎